

JEACS

福音讃美歌 ジャーナル

2023.12 vol.36

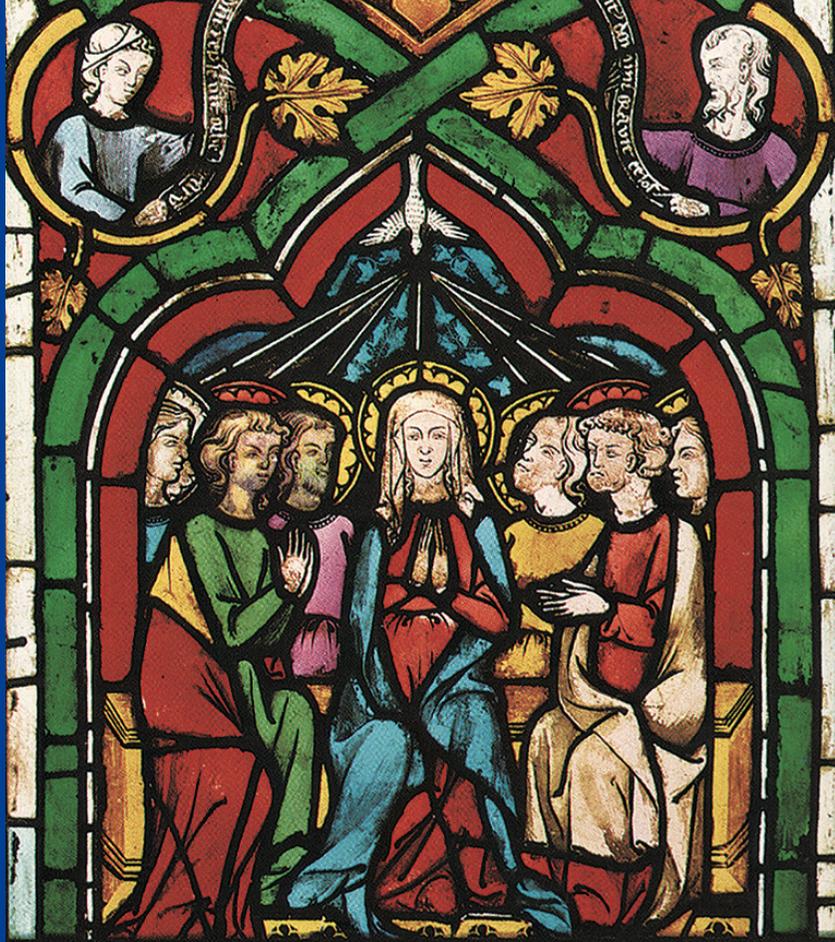


CONTENTS

Page

- ・リラ結成30周年インタビュー・上
塚田献、宮脇栄子 聞き手：中山信児 1
- ・青年の賛美と教団の働き
日本同盟基督教団 西村敬憲 5
- ・クリスチャン・アーティストの Music Video
大嶋英知 6

Japan Evangelical Association
for Congregational Singing



■リラ結成 30 周年インタビュー・上

リラ：塚田献、宮脇栄子 聞き手：中山信児

中山 今日は今年、結成 30 周年を迎えたリラのメンバーお二人にお話を伺っていきたくと思います。宮脇さんには福音讃美歌協会の作曲セミナーの時にも、どうやって曲を作っているかということをお話いただいたんですけども、同じことを塚田先生にもお尋ねしたいと思います。

塚田 初めて讃美歌を自分で作って形にしたのが、19 歳か 20 歳ぐらいだったと思います。大学を辞めて神様から離れていた時期があって、自分探しのような感じで 1990～92 年の 2 年 9 ヶ月間、単身でブラジルの宣教師のところにお世話になりました。その時、もう一度神様と出会って自分の内面を表現するものとして作ったのが最初ですね。もともと音楽はとても好きでしたし教会で歌う讃美歌や聖歌も好きで、キャンプで歌うような曲でギター弾いたりしていました。

最初の讃美歌をどういう意図で作ったかという、自分の家族、父や母が日本にいて、インターネットもない時代なので、私がブラジルで元気であることを知らせるのに、自作の讃美をカセットテープに吹き込んで送ったんです。信仰が回復しているのがそれで伝わったし、自分ももう一度神様に会ったことが本当に嬉しかったんですね。いろいろ悩んだりしたけど、本当に素晴らしいものを与えられてきたっていう感謝の思い、それをギターやピアノで弾いて録音して送ったのが最初です。

中山 なるほど、そういう信仰の回復があってブラジルから帰って TCU に入られたんですね。

塚田 そうですね。92 年の 12 月に帰国して、献身の思いが与えられて 93 年の 4 月に東京キリスト教大学 (TCU) に入りました。ブラジル時代に作ったもので「主よあなたの声を聞かせて」という曲があるんですが、それは私の信仰回復の歌の一つで、初期のリラでも歌いました。

宮脇 塚田さんが自分の信仰の回復をご両親に伝えるのに、手紙じゃなくて讃美のテープで伝えたっていうのは初めて聞きました。

塚田 こんなこと改まって話さないもんね。手紙はちょっと恥ずかしいっていうか、親も讚美が大好きなので、聴いてもらえれば少しは安心するんじゃないかっていう声のメッセージです。

中山 宮脇さんがセミナーの時、辛いことがあったら練習室に行って一人でピアノ弾いて歌が生まれるみたいなこと話されたじゃないですか。塚田先生は、ブラジルから手紙書くより歌作っちゃう。これは二人ともすごいと思うんですね。宮脇さんはピアノでしたけど、塚田先生はピアノとギターですか。



塚田 最初はギターの方が多かったんですけど、ブラジルにいる間にピアノで弾くようになって、前からピアノ習ったことはあったんですけど、コード弾きを一生懸命練習しましたね。ブラジルの現地の讚美はみんなコードで書いてあったので、私はギターとキーボードで弾いてしました。今、自分の気持ちを込める楽器としては、ピアノ、ギターどちらもありますが、どちらかというとピアノですね。

中山 宮脇さんにお聞きしたいんですけど、普通の人、ピアノの前に座った時、知ってる曲は弾けても、オリジナルの何かが生まれてくることってあまりないと思うんです。それができたのはなぜなのでしょう。



宮脇 なぜなんだろう。そうですね。ちょっと辛かった時に一人になりたくって、器楽レッスン室によく行って、聖書とデボーション用のメモ帳を持って、聖書をバンって譜面台に置いて、聖書読みながら心に残ったこととかをデボーションみたいな感じでノートに書いてって、

塚田 それ僕もまったく同じです。だからピアノの譜面台に置いてあるのは聖書なんです。横になんか書くもの、メモがあって、まったく同じ。

宮脇 それ書きながら、なんで歌をつけたくなったかわかんないんですけど、ピアノ弾きながらそのフレーズに合う音楽が出てきた時に、これが私の心の祈りの歌みたいだなって思ったりして。そういう作業が自分にとって、神様と近くなれる時間だったので、そういうところから歌が生まれてたのかなと思います。ことばのように使ってますね、歌をね。お祈りのことばみたいに。私はそんな感じです。



中山 宮脇さんはピアノを習ったことはあるんですか。

宮脇 あります。13年ぐらいクラシックピアノを習ってました。一番難しかった曲はショパンのワルツ 14番 短調（遺作）で、なかなか上手く弾けず、それでもどうにか仕上げましたが、もっと自分が好きな曲を弾きたいと思っていました。それを発表会で弾いたのが中学2年年の時、これ以上できないと思って高校に入る前に辞めました。再開したのはTCUに入ってからで、器楽レッスンでピアノを3年受講しました。

中山 塚田先生はどんなふうにギターやピアノを習ったんですか。

塚田 私は父が牧師で教会に住んでいたので、教会にピアノ習いたい人がいて、地元大学の教育学部の学生がアルバイトで、教会でピアノ教室を開いたんですね。月謝も高いからアルバイトの学生にお願いしてピアノ習うみたいな。それで小2の時からやりました。週1回とかですけど、私も好きな方ではなくて、本当はスポーツが好きだったので、それはもうしょうがなくやってたっていう感じでした。スポーツは、ずっとバスケットやってて中学校の時に、やっぱりピアノやめるって宣言をしたら、ピアノの先生が「じゃあ何が弾きたいの」って聞いてくれて、高校生の時は、尾崎豊とかのピアノ楽譜なんかを入手してこれを練習してました。

中山 「●んだバイクで走り出す」とかも教会でやったんですか。

塚田 そうそう。「I LOVE YOU」とかも弾きましたね。クラシックピアノも楽しかったんですけど、どちらかというと仕方なくっていうのがあって、ピアノの先生がそういうところ考えてくれて、やめないように柔らかく広く包んでくれた感じです。それが30年ぐらい前の話です。

父親も音楽についてはかなり広い考え方を持ってると思います。父は牧師になる前から独学でオルガン練習してて、私が小さい時の記憶で覚えているのは、父がバッハの前奏曲なんかをオルガンで弾いている

のを、私が膝に座ってずっと聴いてたっていう姿です。父はもう 80 過ぎて引退牧師ですけど、奏楽だけは今も月 1 回奉仕してます。現役のときも、夕拝は自分でオルガン弾いてメッセージもしてましたね。礼拝は奏楽者がいたので弾かなかったけどね。私も、今、夕拝はピアノで奏楽して、メッセージもして、父とおんなじことしています。

中山 奏楽と説教するのは大変だとか、奏楽者がいてくれたら、とかって考えたことはありますか？

塚田 私は、自分でどうしたいかっていうと、講壇に立つよりピアノの前に座ってる方が良いなって思うほうなので、そういうチャンスがあれば弾いていたいですね。もちろん講壇の奉仕は大切にしていますけど。

中山 私もコロナ禍の最初の頃、奏楽者が会堂に来れない時なんか、自分でギター弾いてメッセージして、司式も ZOOM のホストも全部ワンオペでやったことがありました。大変だったけど讚美の奉仕ができたのは嬉しかったですね。

塚田 そうですね。それは嬉しいですよ。でも先生の頃って教会でギターやフォークソングとかがあまり受け入れられてない時代じゃなかったですか。

中山 私は 1960 年生まれで塚田先生のほうが一世代ぐらい若いんですけど、高校生の時には、もう教会にゴスペルバンドがあったんですよ。母教会の礼拝や普段の集会では『讚美歌』と『聖歌』しか使ってなかったけど、牧師は、青年たちが『友よ歌おう』を歌って、ゴスペルバンドを組んだりするのを認めてくれていて、特別伝道集会とかクリスマスとかでよく奉仕してましたね。

塚田 確かに、キャンプとかでも僕らのちょっと上のお兄さんたちが、ギターで『友よ歌おう』弾いてるのを見て憧れたことがありましたね。

中山 宮脇さんは、例えば献身する前に、ピアノを習ったことが信仰生活や教会生活に役立ったとか、良かったという経験はありますか。

宮脇 私の場合は、教会の奏楽奉仕に役立つということで親がピアノを習わせたんで、礼拝の奏楽では役に立ちましたね。中学生の頃ですね。

塚田 そうなの。中学生で礼拝の奏楽奉仕ってすごいね。いいよね

中山 その時弾いてたのは、讚美歌とか聖歌ですか。

宮脇 そうですね、教会はキリスト聖協団だったので、礼拝は『聖歌』だけで、その後『ゴスペルソング』も私が中学校ぐらいから取り入れて『友よ歌おう』も歌ってました。『心の中でメロディーを』とかもありましたね。

中山 それが中高生の頃なんですね。そして東京キリスト教大学で、今までと違う教会や讚美に出あったっていうことでしょうか。

宮脇 はいそうですね。やっぱり母教会と TCU の感じはだいぶ違いましたね。

中山 塚田先生はどうですか。TCU とそれまでの母教会で、ブラジルのことはちょっと置いて、何か違ってるとかありましたか。

塚田 僕の場合は、日本伝道福音教団で、北陸中心に新潟、富山、埼玉、茨城にあるんですけど、流れとしてはマイルドなきよめ派ですね。基本的には『聖歌』をいつも歌ってましたし、青年たちはキャンプや教会でもゴスペルソングを歌ってました。私も TCU に行く前に福音自由の教会に行ったり、ブラジルに行った時も向こうは『聖歌』『讚美歌』はないので、ほとんどみんなブラジルで生まれたオリジナルの曲を歌ってましたね。ギターとピアノとかバンドだったりとか。そこでカルチャーショックっていうか、あ、これ普通に礼拝でやってるんだっていうのがありました。TCU に入って、いろんな教会にも行って、教会によって違いがあるのも感じたりしましたね。讚美に関してはかなり自由で、いろいろできるっていうのは、やっぱり TCU だったからだと思いますね。本当にいろんな人たちがいましたね。でも日本では、その当時も大体同じようなオーソドックスなところに行っていて、バンドで礼拝する教会とかには行ったことはなかったですね。

中山 リラの皆さんはTCUで出会われたってことですが、TCUにもいろんな人たちがいて、讚美についてもいろんな考えがありますよね。その中でこのメンバーがそこにいて、一緒に奉仕をするようになったのは、どうしてなのでしょう。

塚田 僕、これいつも話すことなんですけど、元々宮脇さんたちは女性4人でオリジナルの讚美と一緒に歌ってたんですね。彼女たちがTCUの2年で私が1年生で入った時に、それまで知らなかったんですけど、リラが今のメンバーになる前の女性だけで讚美してるカセットテープを入手したんです。実は、私より先に妹が在学していて4年生だったんですね。それで「お兄ちゃんこういう讚美があるんだけど」って聞かせてもらった時に、素晴らしい讚美だなと思って、そして夏休みが終わって修養会の時に声をかけて「この曲聴いてください」って言って、そのテープで聴いてた曲を私のピアノで弾いて、ちょっと冗談ぼく「この曲知ってますか」って言って、本人たちの歌を歌い始めたんです。それで「この曲は本当素晴らしいですね」って、僕としてはなんか一緒に讚美ができればいいなと思って「なんか一緒にできませんか」って声をかけたんです。

中山 その女性4人は今も変わらないメンバーですね。もう1人の男性の青木信太郎さんはその時一緒ではなかったんですか。

塚田 一緒じゃないんです。少し遅れて僕が誘ったんです。女性4人と僕で最初に讚美したのがシオン祭っていうTCUの学園祭で、そこで初めて公に讚美をして、お互いの曲を練習しながら、しばらくやってたんですけど、やっぱり男性が1人だとバランスが良くないので、私が信太郎に「一緒にどう」って声をかけて、それで6人になったんですね。

中山 宮脇さんは、その最初の出会いはどうでしたか。自分が作ったはずの歌を「こんな曲があるんです」とか言っていきなり聴かされるというのは。

宮脇 面白いと思いました。実は、私たちも塚田さんがTCUに入ってくる前に、塚田さんが作った「主あなたの声を聞かせて」っていう曲を聴いてたんですね。私が1年生の時に讚美集会があって、そこで下川羊和（よな）さんが塚田さんと仲良しで、羊和先生がその曲を讚美コンサートかなんかで歌ってくれて、私はすごいいい曲だなんて思って、なんかちょっと讚美歌とまた違うし、今までのゴスペルとも違うなっていうのをすごい感じて「それを作った人が今度TCUに入ってくるよ、あの人だよ」みたいなのは聞いてたんで、その時「あ、この人だ」っていうのはちょっと思いました。はい。

中山 最初にちゃんとお話したのは、その時が初めてだったんですね。宮脇さん、率直に言ってファーストインプレッション、第一印象はどうでしたか。

宮脇 なんか、そういうことする人、あんまいなくなつて。

中山 いないですよ、普通。塚田先生はかなり狙ってやった。

塚田 うん。私、ブラジル帰りがだったので、まだブラジルモードが残ってて、なんか驚かせたり楽しませたりっていうのがブラジルの根底にあるんですね。元々、僕はそうじゃないですよ。北陸の気質なんで、そんなことは恥ずかしくてできないのが、ラテン系になっちゃってたんで、なんかこう印象付けようと思ったんですね。とにかくその歌を覚えたいっていうのもあったんですけど、そうやって近づいていこうかなって。

中山 その時に一緒にやろうとなった。

宮脇 いいんじゃないみたいな軽いノリでしたね。「どっかでなんかやる？」みたいなそんな感じです。

塚田 うんそう、なんか結成しようとか、そういう雰囲気じゃなかったけど、なんか一緒に讚美しようか、じゃあ讚美しようみたいな。僕はなんかできるんじゃないかなっていうイメージはあったので。

中山 すごい自然体の出会いですね。ウィキペディアによると最初に奉仕したのが94年の学園祭ですか。

塚田 宮脇 94年じゃなくて93年の11月だったと思います。その頃シオン祭は11月にやってたんです。

中山 じゃあウィキペディアの記載間違ってますね。ずっと結成30年とおっしゃってるから、なんでずれてんのかなと思ってたんですけど。(現在は修正編集済み) 一次号に続く



青年の賛美と 教団の働き

日本同盟基督教団編

西大寺キリスト教会 西村敬憲

「青年の賛美とキャンプ宣教」

日本同盟基督教団（以下同盟）は、戦後においてその初期から青年への育成と宣教に力を注いできたと言えます。その象徴的な存在が、松原湖バイブルキャンプ場です。1951年に始められてから、現在まで同盟の枠を超えて信仰から献身まで若い人たちの決心の場として用いられています。

また、運営から人材の育成にも取り組み続け、このキャンプ場で訓練を受けた人たちが、各地のキャンプ宣教を担ってきました。同盟の青年宣教の特徴の一つでもある、地域協力によるキャンプ宣教の母体的な役割を果たしてきていると言えます。

同盟では、それ以降、東海地域の同盟諸教会の宣教協力として生まれた浜名湖バイブルキャンプ場や北海道、新潟にもキャンプ場があり、そのほかの地域でもおもに中高生に対するキャンプが行われています。同盟の青年やユースの賛美に最も強く影響を与えるのが、このような多様な各地のキャンプです。かつて松原湖が「友よ歌おう」で歌われた場所であり、それからキャンプのテーマ曲として作られたものが、首都圏の教会で広く知られるようになり、超教派的な広がりで見受けられるようになっていく発信源になりました。現在も松原湖で用いられた曲は、ダンスや演出を含めたスタイルも再現されて諸教会の中高生やCSで使われているようです。

また、キャンプ場での音響機材の充実もそういったことに関心の高い教会や他のキャンプ場にも影響を与えてきました。中には、浜名湖のように賛美にかなり特化した「爆賛」キャンプを毎年行っているところもあります。このキャンプには、青年とユースを中心に子どもやファミリーも集まり、東海地域の賛美文化の源泉ともなっています。

「神学教育機関との連携」

この二つのキャンプは、奉仕者に地域の教会だけでなく、おもに東京基督教大学（TCU）の学生が加わっています。松原湖ではプログラムの担当を担うことも多く、賛美のための選曲から演奏に一定の影響を持っています。TCUは、超教派の神学と一般教養を選択できる大学なので、幅広い人材が学内にいます。またユース・スタディーズ専攻や教会音楽副専攻もあり、バランスの取れたカリキュラムも用意されている中で、若い人への働きや教会音楽を多角的に学ぶことができます。学内ではコンテンポラリーな賛美の新しい作品や演奏が共有され、海外の曲や演奏の情報も豊富です。ですから、次世代向けのキャンプに使用できる音楽の選択肢が自然と広がる可能性が高いと言えます。

また地域のキャンプでは、音楽奉仕者のコンスタントな確保が難しく、特に大都市から離れるほど苦労します。しかし、そのようなキャンプにも最近ではTCUの学生が奉仕者として参加することもあり、そういう時は音楽面でも地域教会に良い刺激を与えています。

「教団での環境づくり」

このTCUの存在は、教団主催の次世代向けのイベントでも大きな力となっています。教団では、全世代向けの大会と次世代に特化した青年宣教大会を数年ごとに行っています。前者に当たる教団創立記念大会や世界宣教大会でも青年大会は行われていますので、2～3年に一度の割合で全国規模の集会が行われています。大会の企画に長く携わってきましたが、教団全体の賛美にワーシップソングが受け入れられるようになったのは、1999年の大会からです。この時から青年を中心とした音楽奉仕者による演奏とワーシップソングが教団全体の集会の賛美歌として定着するようになりました。

この音楽奉仕者は、各キャンプで奉仕をしている中から選ばれることが多いです。青年部やキャンプ委員会では奉仕者の情報を共有しながら、人材のリサーチを行っています。演奏技術だけでなく、協調性やそのほかの奉仕の様子などを考慮しながら慎重に決めて行



西村敬憲師

きます。地域が広がった人選になるときは、全体練習の日程に限られ、さまざまな制約が生じますから、総合的な対応力が求められます。音楽の技術が高い人はたくさんいますが、ワーシップリーダーとして会衆の前に立つ経験を持つ人は、かなり限られてくるのが現状です。そういう意味では、キャンプとTCUは音楽奉仕者の育成の場として不可欠だと言えます。若い教職者をリーダーとして青年の人たちが多く選ばれていくためには、このような働きとの連携を教団のシステムとして位置付けられている必要があります。同盟が青年部、キャンプ委員会、教育部やTCUへの教師や理事、理事長の派遣を通して進めている宣教協力は、青年の賛美の充実にも結びついていると言えます。もちろん教団と強い連携を持っている神学教育機関はその他にも聖書宣教会、新潟聖書学院、東海聖書神学塾、北海道聖書学院、聖契神学校などがあります。そこからのキャンプ奉仕者も青年部として出来る限り把握し、人材育成のビジョンを共有してきました。

「多様化の傾向とこれからのあり方」

このような青年が集まって賛美をする場はおもにキャンプ、神学機関、教団や超教派のイベントになっていると言えます。それは同盟でも同じで、各教会では青年の賛美を議論するほど青年層がいるところはまれです。ですから青年の賛美とは、宣教協力の場で一定の必要性を保っていますが、それぞれの現場ではたとえば中高生や青年会の集まりにおいて、音楽による賛美の求心力は緩やかに弱くなっているように思います。それは若い人たちの関心が多様化していることも一因になっていますが、賛美音楽への嗜好が多様化していることが大きいと思います。かつては、音楽を共有する媒体は紙に印刷された歌集でした。近年は動画の視聴が増加し、好きな曲を都合のいい時間に聞き楽譜もダウンロードできるものが多くなりました。

また、一緒に歌うというスタイルも変化しています。教会生活の中で礼拝以外にみんなで集まって賛美をするということの求心力が以前より失せているように感じます。

そのような時代の流れの中だからこそ、やはり仲間が集まっていっしょに歌うことの経験がより大切になっていると思います。デジタルデバイスでは、カバーできないものが人との触れ合いの中にはあり、ともに賛美をささげることから、ともに生きる場が作られていくことは、聖書に示された賛美の普遍的なありかただと思います。同盟教団も青年宣教と次世代の育成に不可欠なこととして賛美の環境づくりにも今後取り組んでいくことと思います。

■クリスチャン・アーティストの Music Video

Selected by 大嶋英知

コロナ禍での自粛で、音楽活動を制限されていたクリスチャン・アーティストたちにも、活動の場が戻ってきました。今回は、クリスチャン・アーティストによる Music Video を二本ご紹介いたします。



「Lord's Prayer (主のいのり)」
ソプラノ：坂井田真美子 ピアノ：石井里乃



『Count Your Blessings』CD 発売記念オンラインコンサート (2021/6) より。坂井田真美子は、国指定難病 NMOSD (視神経脊髄炎) を発症し、一時は下半身付随となるも、現在は病症や後遺症と共存しながら活動を続けている。映像と歌声に発症以来はじめて砂浜に立てた感動が表れている。



「伝えたい」
Cherish



ゴスペル・シンガー 神山みさプロデュースの新人クリスチャンアーティスト Cherish のファーストアルバム『I, Cherish...』より。エアリーな歌声、まっすぐな歌詞とリズムが心地よい一曲です。

会計中間報告

2023年4月～2023年9月

■収入の部■ (単位：円)

科 目	2023 年度予算	中間報告
会員負担金	1,130,000	861,000
(正会員)	(750,000)	(750,000)
(準会員)	(60,000)	(0)
(賛助会員)	(320,000)	(111,000)
自由献金	350,000	65,000
積立金取り崩し	30,000	0
特別収入	0	0
その他	0	0
当年度収入合計 (A)	1,510,000	926,000
前年度繰越金	2,284,310	2,284,310
収入合計 (B)	3,794,310	3,210,310

■支出の部■

科 目	2023 年度予算	中間報告
理事会費	106,000	0
委員会費	130,000	46,495
人件費	360,000	180,000
事務費	216,000	85,621
ジャーナル発行費	260,000	133,698
カンファレンス開催費	272,000	101,611
総会開催費	0	0
JEA 関係費	95,000	95,860
経常支出合計	1,439,000	643,285
特別支出 積立金	100,000	0
予備費	300,000	88,000
当年度支出合計 (C)	1,839,000	731,285
当年度収支差額 (A) - (C)	-329,000	194,715
繰越額/残高 (B) - (C)	1,955,310	2,479,025

●賛助会費納入者・献金者一覧 (2023年4月～2023年9月) (敬称略)

個人：福田崇、山村雅彦、脇田立郎、安西仁美、藤本侃也、渡辺真理子、斉藤眞木子、本間昭弘、中川啓子、横倉知恵、篠田安子、土井倫子、匿名2件 (14件)

教会：グレースコミュニティ、馬天キリスト教会、武蔵台キリスト教会、松見ヶ丘キリスト教会、泉キリスト教会 (5件)

お名前の掲載を希望されない場合は、通信欄に匿名希望とお書きくださるか、メール (info@jeacs.org) で、その旨をお知らせください。

ご挨拶と支援のお願い

「私は あなたの義を心の中におおい隠さず あなたの真実とあなたの救いを言い表します。
私は あなたの恵みとあなたのみことを 大いなる会衆に隠しません。」 詩篇 40篇 10節

主にある皆さま

聖い主の御名をほめたたえます。

一般社団法人・福音讃美歌協会は、2005年7月の発足以来、2012年8月に『教会福音讃美歌』を発刊し、現在に至るまで会衆讃美の振興、教会音楽を巡る神学的課題への取り組み、讃美歌ツールの作成・提供等を通して、教会にお仕えしてきました。これらすべての働きは、主から出たことと信じ、当協会の主旨にご賛同いただいている諸教会、団体、個人の皆さまの尊い祈りとご支援を通してなされたものと、心から感謝しています。

さて、私たちは当協会の働きに賛同してくださる方々、一緒に取り組まれる方々が、今後ますます増し加えられることを祈り願っています。とりわけご検討いただきたいのが「賛助会員」としてのご入会です。この10年ほど、この賛助会員数は大きな変化はありません。当協会の趣旨に賛同される教会・団体・個人の方々はどうぞこの賛助会員への登録をぜひご検討ください。また「自由献金」としてご支援くださる仕組みもごございます。

先日岐阜市にて開催されました第7回日本伝道会議にて展示を行いました。いのちのことば社のご協力のもと、教会福音讃美歌、同伴奏符(単旋律曲のために)、USB音源、CD等を展示・販売し、今回新しく作成した「福音讃美歌協会 JEACS入会のしおり」やジャーナルを配布し、PRをしました。この「入会のしおり」では、特に「賛助会員」への呼びかけをしております。ご希望の方は事務局までお問い合わせください。「あたらしい歌3」は、2024年1月には販売する予定です。また、販売中のUSB音源の活用例を皆さまにご紹介して行く予定です。もし「このように使っています」という事例がありましたら、ぜひご紹介してください。今後ともお祈りとご支援をよろしくお願い申し上げます。

福音讃美歌協会

◆郵便振替口座◆

番号 00220-1-95127
名称 福音讃美歌協会

◆ゆうちょ銀行口座◆

〇一八店 普通 7252410
一般社団法人 福音讃美歌協会

■福音讃美歌協会 ◆賛助会員募集

- ・「賛助会員」は、福音讃美歌協会の趣旨に賛同し、支援してくださる教会や個人の会員です。
- ・賛助会員のお申し込みは、福音讃美歌協会までメールかFAXで入会申込書をご請求ください。
- ・賛助会員の年会費は、一口5,000円で、個人は一口から、教会は二口からでお願いします。
- ・正会員、準会員の詳細については、福音讃美歌協会まで直接お問い合わせください。



福音讃美歌協会 (JEACS)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 602号室
Tel.03-5341-6920 Fax.03-5341-6921 (いのちのことば社出版事業部内)
ホームページ <http://jeacs.org/> メール info@jeacs.org
[Facebook](#) [YouTube](#) JEACS で検索してください。